令和５年度
文京区議会総務区民委員会 視察報告書

グリーンスローモビリティ（グリスロ）と鞆会館前にて

視察概要

1　視察日程

令和５年 12 月 12 日（火）～13 日（水）

2　視察先及び目的

広島県福山市

⑴　グリスロ潮待ちタクシー（鞆の浦周辺）

「鞆の浦の潮待ちタクシー」の取組に関する調査・研究

⑵　グリスロ城町（城待ち）タクシー（福山城公園周辺）

「福山城公園周遊城町（城待ち）タクシー」に関する調査・研究

⑶　まなびの館ローズコム（福山市霞町一丁目 10 番 1 号）

「第 20 回世界バラ会議福山大会 2025」に関する調査・研究

⑷　ふくやま文学館（福山市丸之内一丁目９番９号）

「文学館のコロナ後の持続的発展に向けた取組」に関する調査・研究

3　視察参加者

委員長	高山	泰三	
副委員長	金子	てるよし	
委員	石沢	のりゆき	
委員	田中	香澄	
委員	田中	としかね	
委員	上田	ゆきこ	
委員	松平	雄一郎	
委員	山田	ひろこ	
委員	海津	敦子	
同行	榎戸	研	（区民部区民課長）
随行	長田	高志	（区議会事務局議事調査担当主査）
随行	小松崎	哲生	（区議会事務局議事調査担当主査）

広島県福山市について

1 人　口

459,160人（令和5年4月1日現在）

2 世帯数

214,259 世帯（令和5年4月1日現在）

3 面　積

517.72㎢

（東西 29.5km／南北 45.7km）

▲福山城（福山市 HP より）

3 市の花

ばら、キク

4 概　要

福山市は瀬戸内海のほぼ中央、広島県の南東部に位置する肥後地域の中核都市で、温暖で雨の少ない瀬戸内海気候に属する。新幹線停車駅である福山駅は、福山城に隣接し、日本一城に近い駅と言われている。くわい出荷量、デニム生産量、鋼板生産量日本一など、様々な産業がさかんであり、歴史的に備後の要として発展してきた。

昭和 20 年の大空襲によって市街地の約 8 割が焼失した中、現在のばら公園に近隣の住民がばらの苗 1,000 本を植えて人々へ希望を与えたことから、「ばらのまち」と呼ばれている。

▲クワイとデニムの産地（福山市 HP より）

5 文京区とのゆかり

文京区とは江戸時代に、文京区西片に福山藩邸があったことからのご縁で、文京区立誠之小学校の名称は、第七代藩主阿部正弘により創設された福山藩校誠之館に由来している。

2018年 3 月に「福山市と文京区との相互協力に関する協定」が締結され、市民交流、文化・観光交流、災害分野など多方面において、各種施策及び事業の相互協力をめざしている。

「鞆の浦の潮待ちタクシー」の取組に関する調査・研究

1　視察先名称

福山市鞆の浦

2　視察日時

令和５年 12 月 12 日（火）午後３時～４時４５分

3　視察目的

「鞆の浦の潮待ちタクシー」の取組に関する調査・研究（乗車体験有り）

4　視察先対応者

アサヒタクシー株式会社

代表取締役　山田　康文　氏

山田　康文　氏

5　事業概要

(1)　グリスロ潮待ちタクシーとは

福山市鞆の浦は、「潮待ちの港」として古くから交易の拠点として栄え、現在は、観光地として栄えている。しかしながら城下町としての作りを持った町並みで、狭い道や急な坂道が多く、住民や観光客の交通で問題が多い課題があった。それを解消するため、地域住民の移動支援や観光客の散策支援を目的として、福山市と地元タクシー業者が手を組み、国の実証事業を経て、2019 年より事業が行われている。グリーンスローモビリティを本格的に事業で用いるのは、鞆の浦が全国初である。福山市民は、「グリーンスローモビリティ」を略して「グリスロ」と親しみを持って呼んでおり、事業名を「グリスロ潮待ちタクシー」とした。

① 地域住民の足として（鞆の浦の人口約 3,600 人の住民の約半数が 65 歳以上）

・病院、地域の商店、郵便局、法事などの集り、寄合や地域活動等への参加に。

② 鞆の浦の観光客に

・小回りが利くので、狭い道や坂道が多い鞆の浦のまちをくまなく巡ることができる。

・小さなお子様連れや、長時間の歩行が困難な方でも安心して利用が可能。

③ 環境にも優しい乗り物

・CO_2削減を期待できる電気自動車型タクシー。

城下町としての作りを持つ鞆の浦の町並み

敵が攻めてきても簡単に進めないようにほとんどが三叉路やＴ字路。
大きな十字路はわずか二、三箇所程度です。

観光のメイン通りに抜ける狭いT字路

病院の前の狭いT字路

メインスポット付近の狭い道

課題

狭い道が多く、
住民・観光客の交通で問題が多い。

(2)　グリーンスローモビリティ(グリスロ)とは

時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、 その車両も含めた総称のこと。「地域の足の確保という課題の解消」「環境にも優しい乗り物」として小型、低速、安全、開放感、環境性にすぐれた狭い道や坂道でも、安心して手軽に利用していただける新しいタイプの交通手段である。グリスロの導入により、バスや通常のタクシー車両では走行が困難だった地域への送迎を可能とする、地域が抱える様々な交通の課題の解決や低炭素型交通の確立が期待されている。

鞆の浦を走行するグリスロ（福山市 HP より）

(3)　車両の基本情報

アサヒタクシーHP より

名　　称	グリーンスローモビリティ（グリスロ）	
車　　両	長さ	342 cm
	幅	135 cm
	高さ	187 cm
	車両総重量	765 kg
	走行距離	30～40 km
	速度	最高 20 km未満
	充電時間	８時間
	乗車人数	４人乗り（運転手除く）
	装備	タクシーメーター、カーナビゲーション、サイドミラー、ウインカーなど。
	型式	ヤマハ AR－05
運　　営	アサヒタクシー（株）	

(4)　実現までの経緯

① 実証調査について

運行開始の前年、2018 年度に国土交通省がグリーンスローモビリティの地域での活用に向けて、地方自治体を対象に実証調査地域の募集を行った。全国 13 の地域から応募があり審査の結果、今回視察を行った広島県福山市を含む5地域が選ばれ、実証調査が行われた。2 週間の実証調査で 1,071 人が利用し、特に 70 代女性による利用が多く高評価であった。

② 実証調査概要

実施期間	2018 年 11 月 16 日（金）～29 日（木）
ルート	観光ガイドを添乗し、主な観光ルートを周遊
料　　金	無料
車　　両	ヤマハ AR－07　２台　６人乗り（運転手除く）
運　　営	アサヒタクシー（株）
結　　果	702 人（１日平均利用者数 51 人/日）

※福山市建設局都市部交通課　資料より

③ 緑ナンバーの取得

福山市と走行エリアについて協定を結び、走行パルスを調べ、メーターが正確に作動するかの実験を繰り返し、設置が可能であることを国土交通省に報告した。また、「ハイヤー・タクシー事業における「二扉」の自動車の使用について」通達の解釈の変更もあって、全国初の緑ナンバーとしてのグリスロが誕生した。

(5) 運行概要

運行開始	2019 年 4 月 19 日（金）	
運行地域	鞆町（平地区から鞆鉄鋼団地まで全長約４ｋｍ区域）	
乗車人数	４人（運転手除く）	
利用料金	通常のタクシー料金と同等	
	初乗運賃	最初の 1.5 キロメートルまで 750 円(距離に応じた加算運賃あり)
	お手軽コース	鞆の浦各地発ー渡船場ー龍馬の隠れ部屋ー御舟宿いろはー力石ー土屋本店ー常夜灯ー鞆の浦各地着 貸切 30 分、3,200 円（税込）
	満喫コース	鞆の浦各地発ー対仙酔楼ー龍馬の隠れ部屋ー御舟宿いろはー力石ー常夜灯ー岡本亀太郎本店ー寺町ー山中鹿之助の首塚ー鞆の浦各地着 貸切 60 分、6,400 円（税込）
運行時間	午前９時～午後６時	
利用方法	電話予約	

※運行地域で時間内ならアレンジ可能。

「グリスロ潮待ちタクシー」が運行する区域

⑹　事業の成果

高齢者を中心として地域住民からは、「自宅から病院、買い物など手軽に利用できる乗り物で、便利になった。」という声や、「コンパクトな乗り物のため運転手との会話もしやすい。」という声が寄せられている。また、観光客からは、「開放的で低速な乗り物のため、鞆の浦の雰囲気を肌で感じやすく、また乗務員の案内で地域の歴史などをより詳しく、短時間で観光する事ができる。」という声が届いている。さらに、地域住民が観光客に声をかけるなどの交流が生まれ、町に活気が出てきており、予約数も上昇している。

全国初のグリスロを使ったタクシー

アサヒタクシーHP より

「福山城公園周遊城町（城待ち）タクシー」に関する調査・研究

1　視察先名称

福山城公園周辺（福山城公園駐車場）

2　視察日時

令和５年 12 月 13 日（水）午前 10 時 45 分～11 時 30 分

3　視察目的

「福山城公園周遊城町（城待ち）タクシー」の取組に関する調査・研究

4　視察先対応者

アサヒタクシー株式会社

営業推進部長　清水　宏　氏

清水　宏　氏

5　事業概要

(1)　グリスロ城町（城待ち）タクシーとは

福山駅福山城口（北口）にある福山城公園には、福山城の他に文学館、美術館、博物館、人権平和資料館等の文化施設が多数存在している。しかしながら、福山城への移動が階段や坂のみで、高齢者や障がいのある方などにとっては、移動が困難という課題があった。そこで、移動支援や福山城公園内の周遊性向上のため，2022 年の福山城築城 400 年に向けた取組のひとつとして運行することとなった。

(2)　実現までの経緯

①　実証調査概要

実施期間	2019 年 11 月３日（日）～４日（月：祝日）
場　　所	ＪＲ福山駅福山城口（北口）から福山城天守前広場まで
料　　金	無料
運　　営	アサヒタクシー（株）
結　　果	２日間で 175 人（60 代以上の方の利用が約５割）

※福山市建設局都市部交通課　資料より

利用者アンケートでは、有料運行の場合でも利用すると回答した割合が約7割を占め、料金については、100 円～200 円での運行を希望する意見が多かった。このことから、グリスロに対するニーズは十分あり、グリスロが福山城へのバリアフリーとしての役割を担うことの有効性を立証できると判断した。

② グリスロ城町（城待ち）タクシー誕生

2020 年 1 月 27 日開催の有識者、関係機関、団体等で構成された「福山・笠岡地域公共交通活性化協議会福山地域部会兼公共交通会議」において、導入が決定された。

(3) 運行概要

運行開始	2021 年 3 月 28 日（日）
運行区間	福山城公園内 7 か所（ＪＲ福山駅福山城口（北口）、福寿会館、福山城天守前広場、ふくやま文学館、福山市人権平和資料館、ふくやま美術館、広島県立博物館）
乗車人数	４人（運転手除く）
利用料金	１乗車１人　200 円（区域乗合）
運行日	土曜日、日曜日、祝日のみ
運行時間	午前９時～午後４時
利用方法	電話予約・専用アプリ

福山城とグリスロ
（アサヒタクシーHP より）

6　主な質疑応答

Q：ドライバー不足の課題をどのように考えているのか。

A：現状、そこまで大きな課題となっていない。自社のドライバーは高齢者が中心である。国交省を中心にライドシェアの議論が進んでいるが、一般ドライバーが誰でもできるような条件の無い、ライドシェア解禁については、慎重に検討した方がいいと考えている。

Q：ゴルフカートとはどこが違うのか。また一台どのくらいの金額か。

A：ウインカー、ルームミラー、ブレーキランプ、料金表示のメーターが付いている点が異なる。車両の本体価格は約 260 万円程度で、そこに様々な整備を行うため、トータルで約 400 万円弱のコストがかかる。

Q：雪が降った日の走行について伺う。

A：悪天候の場合は、運休する場合もある。雪道走行については、石川県金沢市でスタッドレスで走行実験を行った（実証実験済み）。

Q：鞆の浦でグリスロを導入検討したきっかけについて伺う。

A：鞆の浦は、毎年 200 人近い人口減少が続き、2021 年には約 3,600 人、高齢化率約 48％と住民の高齢化が進んでいる。まさに、日本の近未来の姿を先取りしたようなこの地区で、何かできないかを考えていた。また、福山市も、急激な人口減少が続く地域での対策が急務であったため、連携して行動を起こすことにした。

Q：グリスロを導入して、地域住民によかったと思えることを伺う。

A：高齢者などの住民の足として、ドア to ドアの運行を可能になった。病院や施設への移動を容易にし、買い物や食事、地域行事への参加など、福祉増進につながったと考える。

グリスロ城町（城待ち）タクシーの説明を受ける様子

停留所の１つのふくやま美術館

Q：観光面での効果は。

A：新たな観光ルートを開拓できたと考えている。車では行けなかった場所や歩いての　移動では遠い場所に、景観を壊さず、交通や通行者の妨げにならない移動が可能となった。また、乗務員の説明を聞きながら、ゆっくりと楽しめる速度で進めることで、観光客には高い評価をいただいている。

Q：緑ナンバーでのグリスロ運行を実現するにあたって、もう少し詳しく伺う。

A：まず、ドアがない車両であることから、道路事情の安全性について調査した。鞆地区の中心は、狭い道の構造を持ちながらも、交通事故は少ないという警察のデータもあって、住民によれば、道路が狭いので「速度を出さない」「皆が日頃より注意をしている」など、そこにある歴史に寄り添っていると感じている。

また、福山市と連携して、国土交通省、中国運輸局に「自家用有償旅客運送」や「ライドシェア」ではなく、公共交通機関としても利用できるということを説明した。福山市と連携した事業「福山市連携モビリティ」で、公共交通機関として始動することを目指して、丁寧に説明した結果、許可を取得できたと考える。

Q：装備面ではどうか。

A：グリスロ車両の開発については、静岡県桶川市にあるゴルフカートを製造している会社に改造を依頼した。走行パルスを調べ、メーターが作動するかの実験を繰り返し、設置が可能であることを確認し、報告した。

Q：グリスロ城町（城待ち）タクシー導入後に工夫したことはあるか。

A：年配層でもグリスロを呼びやすくするため、どこを走っているのか、どのくらいで来るのかを、複雑な操作をしなくてもワンプッシュで確認し、配車できるアプリを開発した。

Q：今回視察した2か所以外で取り組んでいることはあるか。

A：福山駅周辺には、大小含め多くの商店街があるが、シャッター街になっている所を、どうにかして人が動ける仕組みをつくれば、活性化につながるのではないかと考え、福山市と連携して、実証実験を6回程行った。対象の商店街は、普段、車は走れないが、警察からも許可をもらい、市と警察と連携をして実施した。しかし、本運行に向けては、採算面で大きな課題があると認識している。

「第 20 回世界バラ会議福山大会 2025」に関する調査・研究

1　視察先名称

まなびの館ローズコム（福山市立中央図書館、生涯学習プラザ）

2　視察日時

令和５年 12 月 13 日（水）午前９時 00 分～９時 30 分

3　視察目的

「第 20 回世界バラ会議福山大会 2025」に関する調査・研究

⑴ 国際MICE（※1）の誘致と準備について

⑵ ローズマインド（※2）を通じた福山市と文京区の都市交流について

⑶ “花”を生かしたまちづくりについて

（※1） MICE とは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称（観光庁 HP より）

（※２）福山の戦後復興から半世紀の歩みのなかで、誕生し根付いた言葉で、「思いやり　優しさ　助け合いの心」を表している。（福山市 HP より）

4　視察先対応者

福山市市長公室　世界バラ会議推進室

室長　大本　貴淑　氏

次長　市川　宏治　氏

次長　藤川　弘安　氏

プロジェクトマネージャー　上田　善弘　氏

大本　貴淑　氏

市川　宏治　氏

藤川　弘安　氏

上田　善弘　氏

WFRS 20th
WORLD ROSE CONVENTION
2025
in FUKUYAMA
第20回 世界バラ会議福山大会

第20回
世界バラ会議
福山大会
2025
WFRS 20th
WORLD ROSE CONVENTION
2025 in FUKUYAMA

▲第 20 回世界バラ会議福山大会 2025 ロゴ（福山市ＨＰより）

5　事業概要

(1)　開催概要

テーマ	“Ｒｏｓｅｓ　ｆｏｒ　ｔｈｅ　Ｆｕｔｕｒｅ ～福山からはじまる、新しい未来～”	
コンセプト	みんなで創る　みんなで盛り上げる　みんなで輝く	
開催期間	本会議	2025 年５月 18 日（日）～24 日（土）
	プレツアー	2025 年５月 12 日（月）～17 日（土）
	ポストツアー	2025 年５月 25 日（日）～30 日（金）
イベント内容	① 会議・講義　②ツアー　③ばらの新品種国際コンテスト ④ばらの博覧会（ローズエキスポ、福山大会と同時開催）など	
市民参画	応援宣言の募集、ばらにちなんだ商品開発の支援など	
事業予算	誘致活動	11,000 千円
	大会予算	大阪大会（約 240,000 千円）を参考に調整
開催主体	世界バラ会議福山大会実行委員会	
	特別顧問	観光庁・農林水産省・国土交通省・外務省・経済産業省 (公社)2025 年日本国際博覧会協会・広島県
	会長	(公財)日本ばら会
	実行委員長	福山市

⑵　ばらのまち福山のまちづくりについて

1945 年8月の空襲で、福山市は市街地の約8割を焼失した。戦争の傷跡が癒えない1950 年代半ばに、まちの復興に向け懸命に生きる住民の中から「花を植えよう。荒廃したまちに潤いを与え、人々の心に和らぎを取り戻そう。」という声が起こり、市民の手によって現在のバラ公園に 1,000 本のばらの苗を植えたことから始まった。ばらを育てることで生まれる思いやり、優しさ、助け合いの心を育み、「ばらづくりは優しいまちづくりにつながる」とう人々の思いが、“ローズマインド”いう言葉を生み、市民と行政の協働によって、家庭の庭先から道沿いの小さな花壇へ、そしてまち全体に広がる運動を推進してきた。

1985 年(昭和 60 年)には、ばらは市の花に制定され、まさに福山市のシンボルとなり、さらに市民の大切なふれあいの場となっている「ばら公園」は、2006 年 5 月に「世界バラ会連合優秀庭園賞」を受賞している。

ばらのまち福山
イメージキャラクター「ローラ」

福山市 HP より

2015 年「福山市ばらのまち条例」「ばらの日（5 月 21 日）が制定され、2016 年、100 万本のばらのまちを実現するなど、ばらのまちづくりの普及・学習活動、都市ブランドの向上に取り組んでいる。

福山市ばらのまち条例

園芸ばらは、温度管理すれば四季咲きだが、5月が開花のピークで、この一番美しい季節である5月の第三週の土日に、福山ばら祭を開催している。福山ばら祭は 60 年の歴史を誇り、過去には来場者数 80 数万人を数えたこともある。この伝統ある「福山ばら祭」と同じ時期に、世界バラ会議福山大会は開催される予定である。

福山市 HP より

⑶　世界バラ会議の準備について

世界バラ会議は世界 40 か国が加盟する世界バラ会連合が開催する3年に1回の会議であり、日本では 2006 年に大阪市で開催された。福山大会では国内外から約 700 人の参加を想定している。福山大会は、第 20 回の記念大会となる。同時に開催される Rose Expo FUKUYAMA 2025 では、約 20,000 人の来場者数を目標としている。

これまで、プロモーションビデオなどを通じた広報を展開し、市内外から応援宣言を募集するなど周知に努めている他、アデレード大会で福山をPRしてきた。その結果、戦後復興のシンボルとして市民と行政が一体となって推進してきたこと、オープンマインドで人を思いやる心を育ててきたことが世界で評価されている。

また、視察場所であるまなびの館ローズコムに隣接する中央公園を中国・四国地方で初の Park－PFI（公募設置管理制度）※を導入し 2021 年リニューアルした他、福山駅福山城口（北口）スクエアの再整備、ローズロードの整備、ばら公園等のリニューアル（2024 年春）など、市内のインフラ等の再生に力を入れている。

※都市公園において飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を、公募により選定する手続きのことで、事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市 公園法の特例措置がインセンティブとして適用される。（国土交通省 HP より）

リニューアルされた中央公園（福山市 HP より）

① 情報発信について

福山市では、全国の自治体で初となる「福山アンバサダー制度」を創設し、1,184人のアンバサダーが福山の魅力をSNSで発信するなど、広報戦略に力を入れている他、連携中枢都市圏として広域ビジョンを策定し、備後圏域６市２町の一体的連携を進めている。(2023年12月時点)

また、福山市公式LINEアカウントを開設し、市民の３人の１人の14.8万人が登録している。(2023年８月現在)

他にも、様々なイベントを開催し、世界バラ会議の情報発信を行っている。一例として、毎年、東京ドームで開催している「世界らん展2024」2024年２月７日（水）～2024年２月14日の開催期間中、世界バラ会議のブースを設置し、ＰＲを行った。

② 市民参画の取組

応援宣言募集チラシ

啓発用うちわ

⑷　大会概要

① 世界バラ会連合 各種委員会・会議

表彰委員会、開催地選考委員会、ヘリテージローズ（伝統ばら）委員会、分類・登録委員会、出版委員会などの委員会や理事会、役員会を開催する。また、世界 40 か国の加盟組織の代表者による評議委員会を行い、これらの会議により次期開催地、優秀庭園賞などを決定する。

② 講義

ばらの植物学、栽培、育種、歴史・文化などをテーマに各国の研究者や専門家を講師として招き、ばらの最新情報、研究成果の発表などの講義を行う。

会場の1つのばら公園（福山市 HP より）

③ ウェルカムパーティー

大会 1 日目夕方に、大会参加者に「ばらのまち福山へようこそ」の心を込めて、ウェルカムパーティーを開催する。

④ 開会式・歓迎レセプション

本会議の幕開けを告げるイベントとして、参加を歓迎するレセプションを行い、演出や趣向を凝らしたアトラクションで華を添え、本会議への期待感を高めていく。また、開会式では殿堂入りのばらの発表を行う。

⑤ フェアウェルパーティー・閉会式

大会最終日に日本らしさ、福山らしさを感じることのできる式典を含めた懇親会（フェア ウェルパーティー）を開催する。

都市防災、レクレーション、環境保全の機能を併せたローズヒル（福山市 HP より）

⑥ ローズショー・展示会・交流会

ローズショーとして国内外最高峰オーケストラによるコンサートや、日本の伝統芸能を披露するオリエンタルなショーを開催する。

福山市が制定した「ばらの日」に、市内中心部商店街で、福山のまち全体で“ローズマインド”あふれるおもてなしを行う。

「ふくやま」と名の付く7種類のばらが植えられている花園公園（福山市 HP より）

⑦ ばらの新品種国際コンテスト

農薬散布を前提としない、誰にでも育てやすいばら、まちなかでの栽培に適したばらを、「未来のばら」として決定するコンテストを開催し、SDGsを推進する。

その他、フレンズディナー、歓迎昼食会など開催期間中に多数のイベントを開催予定。

(5) Rose Expo FUKUYAMA 2025（福山大会と同時開催）

第 20 回世界バラ会議福山大会 2025 の開催を記念して、大会の開催期間に、ばらの祭典・Rose Expo FUKUYAMA 2025 を開催する。

7　主な質疑応答

Q：誘致活動の経緯について伺う。

A：2016 年「100 万本のばらのまち」の実現が見込まれたことから、今後の目標として「世界に誇れるばらのまち福山を目指していくため、世界バラ会議についての情報収集に取り組み始めた。

2017 年 2 月、市長記者会見で正式に 2022 年の地域大会の誘致に向けて取り組むことを表明し、「世界バラ会連合地域大会福山大会準備委員会」を市が中心となって呼びかけて設立した。その後、世界大会の誘致に目標を切り替えた。

Q：誘致活動にあたっての工夫を伺う。

A：国内の有識者（世界バラ会議に参加実績のある者など）からの情報収集や世界バラ会連合を招待してのPR活動を行った。

Q：実行委員会における福山市役所の役割を伺う。

A：実行委員会の事務局として、予算管理や各種事業実施、具体的な事業を実施するための専門委員会（部会）の事務等を、市の各部署と連携して行っている。

Q：実行委員会の運営体制を伺う。

A：事務局は福山市市長公室世界バラ会議推進室が担っている。専門委員会はMICE部門とバラ会議部門に分かれており、経済総務課、世界バラ会議推進室がそれぞれ担当している。

福山市世界バラ会議推進室は、課長職以下で 10 名（プロジェクトマネージャー、会計年度任用職員を含む）。経済総務課のうち、世界バラ会議推進室の兼務職員が課長以下で 2 名の体制である。

Q：大会準備における広報の工夫を伺う。
A：SNSやHPでの展開に加え、国等と連携し、情報発信している。
SNS投稿にはハッシュタグ（＃ばらのじかん）を促している。日本ばら会報誌、世界バラ会連合ワールドローズニュースによる発信し、また、園芸インベント等への出展なども行っている。

Q：大会準備のためのインフラ整備について伺う。
A：観光案内所の改修、多言語観光案内標識の整備、拠点講演の整備、道路環境の整備、沿道への植栽等を実施している。

Q：市民協働の醸成について伺う。
A：応援宣言の募集、世界バラ会議700 日前イベント「ばらを飾ろう！ばらを植えよう！」の実施、ボランティア希望者向けのおもてなし講座、市民・企業提案型事業への事業費補助や広報支援の実施などを行っている。

Q：会場選定のプロセスを伺う。
A：大会ガイドラインを参考に、高齢の参加者が多いという特性を踏まえ、可能な限り徒歩圏内としつつ、収容人数や設備、エリアMICEの視点、ユニークベニュー※活用等を会場運営部会で検討し、実行委員会で選定した。世界バラ化連合役員の視察（2023 年 10 月）の際に確認してもらった。
※歴史的建造物、文化施設や公的空間等で会議・レセプションを開催することで特別館や地域特性を演出できる会場のこと。（観光庁HPより）

Q：平和メッセージの発信と広島県との連携について伺う。
A：大会期間中の視察ツアーに、広島県内の平和関連の施設に訪問するツアーを造成する予定である。

Q：外国語対応事業等について伺う。
A：今後、外国語対応が可能なボランティアを募集する予定である。ボランティア以外の外国語対応として、看板の多言語化や飲食店での外国語表記メニューを開発する予定である。また、市民・企業提案型事業で、中学生等が英語でおもてなしをするユースチームをつくる提案もある。

Q：福山大会以降の展望を伺う。

A：世界バラ会議福山大会の取組をレガシーとし、引き続き、「ばらのまち福山」のさらなる発展につなげていく。

・ガーデンツーリズムやMICEの推進

・世界バラ会議福山大会に向けて取り組んだ環境整備施設の活用

（ばら公園などの植栽リニューアル、ローズロードなどの整備）

・多言語対応の観光案内板などの整備

・継続したばらのまちづくりの推進

・環境負荷の少ない大会記念ばら（無農薬ばら）の普及

・ローズマインドのさらなる浸透、発信

・SDGsの推進　など。

Q：福山市の気候とばらの栽培環境について伺う。

A：瀬戸内の気候は、雨が少なく、ばらの栽培に適している。雨量は東京より 700～800mmほど少ない。ばらは病気になりやすい植物だが、福山では病気の発生が少ない。気候に合っていることもばらの栽培が盛んな理由の一つだと思われる。ただし、2023 年は雨が多く秋ばらの開花が約 1 か月遅れた。

Q：インバウンド効果について伺う。

A：市内や県内、国内を回っていただくツアーを造成する予定である。以前はMICEに力を入れていなかったが、MICEの専門家を招聘し、戦略を作成した。世界会議レベルの会場にふさわしいコンベンションセンターがなかったため、エリアMICEとして市内の様々な施設を使って受け入れる予定。今後は大会準備で獲得した知見を生かしてMICE誘致とインバウンドにつなげていきたい。

Q：福山市役所の土木部門にばら栽培の専門家がいるのか、公園や道路のばらをどのように管理しているか伺う。

A：市役所は一般的な街路樹の管理が主で、ばらの専門家がいなかったため、地域管理をしてもらっている。ばら栽培の人材育成のため、市民向けの「ばら大学」を開催し、14 年間で約 580 名の卒業生がいる。国道や県道の管理についてもそういった専門性のある地域団体を紹介することで管理していただくようにしている。また、卒業生が地域の自治会と一緒に公園のばらの管理を行う例もある。これまでの協働のまちづくりの理念が市民による管理につながっている。また、ばら栽培を広げるために、毎年約1万本のばらの苗を無償配布している他、小学校入学時にばらの苗（4,000 鉢）をプレゼントし、子どもの頃からばら栽培に親しんでもらうようにしている。地域の方と小学生による協働事例もある。

まなびの館ローズコム前（中央公園）にて

ＪＲ福山駅前ばら花壇から福山城を望む（福山市 HP より）

「文学館のコロナ後の持続的発展に向けた取組」に関する調査・研究

1　視察先名称

ふくやま文学館

2　視察日時

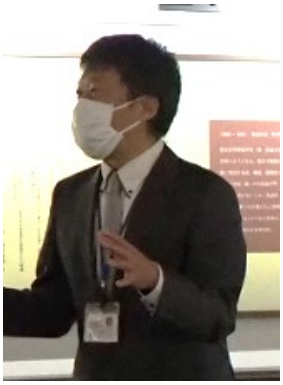
令和５年 12 月 13 日（水）午前 10 時 00 分～10 時 30 分

3　視察目的

「文学館のコロナ後の持続的発展に向けた取組」の取組に関する調査・研究

4　視察先対応者

公益財団法人ふくやま芸術文化財団
ふくやま文学館　管理課長　赤尾　重信　氏


赤尾　重信　氏

5　視察内容

(1)　ふくやま文学館とは

ふくやま文学館は、福山市出身の小説家である井伏鱒二の顕彰と、福山市ゆかりの文学者の紹介・関係資料展示を行っている。また文学館主催の研修会や学習会も行い、文学の向上・推進と普及を図り圏域の文化交流を促進している。

福山城の北西に位置し，城を借景にした瓦ぶきの建物は，展示の中心作家井伏鱒二の郷里加茂地方の民家をイメージして造られた。

名　　称	ふくやま文学館
所 在 地	福山市丸之内一丁目９番９号
建　　物	地上２階、地下１階（建築面積 880.66 ㎡、延床面積　1,540 ㎡）
営業時間	9 時 30 分～17 時 00 分
定 休 日	月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始
利用料金	＜常設展＞一般 310 円、高校生以下無料、団体（20 人以上）250 円 ＜特別展＞その都度定める料金（高校生以下無料）
運　　営	公益財団法人ふくやま芸術文化財団

ふくやま文学館は、2022 年に築城 400 周年を迎えた福山城を中心に、美術館や歴史博物館など多数の文化施設が集まっている福山城公園内にある。福山市民はそれらを「ふくやま文化ゾーン」と呼んでいる。

ふくやま文化ゾーン（福山市 HP より）

⑵　運営について

2019 年４月１日、これまで３つあった文化振興会などの財団が合併し、公益財団法人ふくやま芸術文化財団が設立された。芸術文化の振興と交流・発展をめざした諸事業の充実や、芸術文化に関する教育普及活動の推進及び市民交流の場の提供等を行うことを目的に、ふくやま文学館の他に、ふくやま美術館、福山城博物館、ふくやま芸術文化ホールなど、11 施設の管理運営を行っている。

ふくやま文学館（ふくやま文学館 HP より）

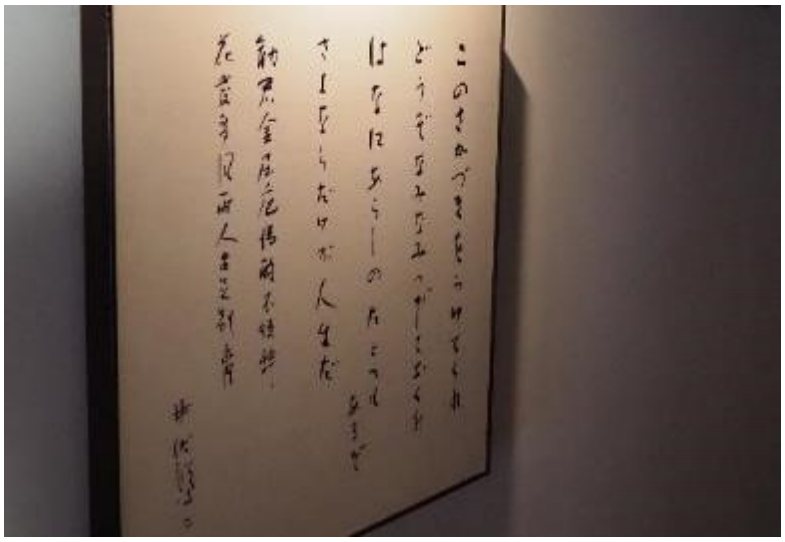
正面玄関前

⑶　持続的発展に向けた取組について

ふくやま文学館では、年間予算は 6,400 万～6,500 万円で、人件費が半分を占めている。展示に関する予算は 300 万円ほどで、常設展示とは別に、特別企画展を年間２回、子どの向けの企画を年間１回開催している。また、自主事業の特別展を年間１回実施している。

説明では、財団合併によって管理していく施設が増え、文学館に配属されている学芸員が2名から1名となった。また、コロナ禍により一定期間の休館も余儀なくされ、予算は「かなり厳しい」状況であり、赤字は財団の基金で補填している。資料購入は、予算要求を行ってはいるが同様に厳しく，基本的には遺族や市民からの提供に頼っている。

また、施設内の照明をLEDにするなどし、経費節減に取り組んでいるとの説明があった。



井伏鱒二　書「勧酒」

コロナ禍の状況において、来館が難しい広い年齢層の利用者への多様な情報提供を行うとともに、確実な感染予防対策を講じ、来館してリアルな時間を過ごすことで不安な心を癒し元気を得ることができるよう、でき得る限り施設が開かれた状態を維持し、人々の日常生活に寄り添った活動を継続することを心掛けたという。

シンボル展示室
手前は井伏鱒二愛用の万年筆

コロナ後の取組としては、財団が管理する文学館他 10 施設で、近隣の施設を巡回するスタンプラリーを行ったり、福山城内外の施設と企画を共同開催するなどして、双方の施設に来場者が訪れることができる取組も実施していることが説明された。

ふくやま文学館正面玄関前にて

視察を終えての感想

視察を終えて感じたこと

高山　泰三　委員長

この度の広島県福山市への視察は、文京区の発展に役立つ多くの示唆を与えてくれました。また、私たち文京区議会総務区民委員会にとっても大変有意義な経験となりました。

グリーンスローモビリティの環境に優しい移動手段の取り組みは、私たちの地域における環境保全と観光振興の両立について、新たな視点を得ることができましたし、運営会社であるアサヒタクシー様の山田社長の情熱に一同圧倒されました。世界バラ会議実行委員会事務局の訪問では、国際イベントが地域経済に与える影響の大きさを実感し、文京区における花の五大まつりのこれからの可能性を考えることとなりました。

また、ふくやま文学館では、地域文化の振興と文学への関心を高める展示方法に触れ、文京区の文化施設運営において参考になる点が多々ありました。

視察先の各関係者の方々からは、温かい歓迎と丁寧な説明を受け、私たちの質問にも熱心に答えていただきました。この場を借りて、改めて深く感謝申し上げます。また、本視察に参加した委員各位の熱心な調査活動と積極的な意見交換にも感謝します。

私を含め各委員がさまざまな「気づき」を得たことと思います。今回の視察が、文京区のさらなる発展に寄与することを確信しています。ありがとうございました。

住民自治での施策展開について

金子　てるよし　副委員長

鞆の浦地区でのグリーンスローモビリティは、午前は高齢者の通院利用を中心とする他、定額での観光ルート周遊運行をしており、地域住民の移動手段として、また、観光振興目的として活用が図られている。電動自動車を活用して住民の移動手段を提供するという点で事業者の熱意に学んだ。同時に、時速20キロの電動自動車と言う点で、既存の交通手段との兼ね合いや安全性については課題を残している。福山駅周辺地区での観光や住民の移動手段としての運行についても実証を開始しており、市街地での展開に期待したい。

福山市では、第2次大戦での空襲被害からの復興を目指し、市民運動として始まったバラ栽培が、自治体の取組みとして長年位置づけられ、市による苗木の無料配布や育て方の講習・普及が取り組まれてきたという。市民に根付いてきた伝統や蓄積を生かしてのバラ会議開催に向け、自治体として花卉の専門家を任期付きの職員として招聘し成功を期しているとのことだった。自治体において専門家（研究者）を雇用し、市民参加でのイベント開催に取り組む市の姿勢に学びたい。

ふくやま文学館では福山出身の井伏鱒二を中心とした文学資料の展示・研究に取り組む様子を伺った。展示や資料購入などに関わる予算の拡充や、それらの業務を担う学芸員の待遇拡充の必要性は本区においても同様の課題を突き付けていると感じた。

鞆の浦内を走るグリスロタクシー、世界バラ会議、ふくやま文学館の取り組みを学ぶ視察を終えて

石沢　のりゆき

鞆の浦内を走るグリスロタクシーは、乗り降りしやすく、細く入り組んだ街中や急な坂道も軽快に走ることができ、街の人との距離も近く、鞆の浦のような観光地を走る用途としては使い勝手の良い移動手段だと感じました。ただタクシーには周りを遮るものや空調がないため悪天候時には風雨を防ぐ工夫と、真夏や真冬などには、乗務員や乗客の体調面も考慮した対策が必要だと思いました。町田市でも団地内をグリスロタクシーと同様のタイプの車が走っているということなので、どのような活用がなされているのか、興味を持ちました。

世界バラ会議についての勉強会では、戦後復興の中で 1,000 本のバラの苗木を植えた福山市の歴史も大切にしながら、市内のバラの管理などで市民参加の「バラ大学」も作りながら地域住民も巻き込んで管理していると説明があり、戦後の歴史を大切にし市民の理解と協力を得ながら市の花としてのバラの管理を行っていることに感銘を受けました。

ふくやま文学館の視察では、指定管理者を受託しているふくやま文化芸術財団から説明で、資料の購入も難しく「寄贈に頼らざるを得ない」など、指定管理料が少ないなど財政的に厳しい状況が切々と語られましたが、文化芸術分野に向けた予算の厳しさは全国共通で、抜本的な予算増を行い、文化芸術分野を支えていく取り組みの必要性を痛感しました。

鞆の浦の潮待ちタクシー、世界バラ会議福山大会の視察を終えて

田中　香澄

グリーンスローモビリティ（略してグリスロ）は、電動で時速20キロ未満で行動を走ることが可能な、4人乗りの公共交通だ。実際に鞆の浦の街中を走行し、乗車した時のワクワクは一生忘れないと思う。環境に優しいことと人力車のように、ゆっくりと歴史ある街並みを楽しむことができる。午前中は高齢者が病院への足となっていて好評だそうだ。交通量があまりなく道幅が狭くてスピードが出せない道路にはもってこいだ。難点は車体にドアがないので気温が低かったり悪天候には向かない。現在運転手など人材確保も課題だが、アイデア勝負で乗り越えようとしている。大いなる可能性を感じるグリスロは現在様々な地域で乗車されている。本区で導入可能か今後も調査していきたい。

四季折々の美しさを見せるここ福山市は、温暖な気候により 100 万本のばらが咲き誇る「ばらのまち」になった。市民の手によってばらの苗が植えられ、ばらのまち作りが始まった。そしてばらへの慈しみが思いやりや優しさ助け合いの心を育むという理念を大切に「福山ばらのまち条例」の制定をはじめ世界中のばらの生産者、愛好家、芸術家が一堂に会する国際会議を、2025 年の開催を目指し取組んでいる。美しいバラの祭典は植物としての美しさだけではなく、市民の心の育みまで醸成し郷土への愛着と誇りが感じられる大会を目指すという。本区が取組む様々なイベントについても愛着や区民の誇りが高まっていくように工夫していきたい。

「協働プロセス」のあり方について

田中　としかね

福山市における「ばらのまちづくり」。戦後の復興を願い、1950 年代に住民の手によって植えられたばらの苗から、そのストーリーは始まります。2025 年に開催される「第 20 回世界バラ会議福山大会」のコンセプトとして掲げられた「みんなで創る　みんなで盛り上がる　みんなで輝く」というフレーズには、これまでの 70 年にわたる「まちづくりの歩み」が凝縮されているように思います。すなわちそれは、「行政への市民参加」のみならず「市民活動への行政参加」という双方向での「協働」のあり方であり、市民と行政による共有目的の実現に向けた継続的な「協働」形態のあり方でもあるのでしょう。

文京区においても、地域課題の解決に向けて、多様な地域住民が主体的・継続的に参画していく「協働プロセス」を重視した取り組みが求められています。「異なる強み・資源・機会を有する主体が、共有された目標を実現するために、責任と役割を共有・分担し、互いの強み、資源、機会を活かしてともに主体的に取り組み、相乗効果を得るためのプロセス」です。福山市の事例は大いに参考となるでしょう。

視察を終えて

上田　ゆきこ

グリーンスローモビリティについては、小型でオープンな車両による非日常の移動手段として観光目的の運用の他、細街路などの多い地域の高齢者の移動手段として、可能性があると感じた。速度制限（時速 20 キロ以下）による安全性や環境への配慮も魅力的だが、運転手の確保について課題があると感じた。

世界バラ会議については、文京区では四季ごとに花の五大祭りが開催されており、それぞれに市民協働の歴史を持っているが、今回、福山市のばらのまちづくりを視察し、身近な道路や公園などに花を活用することでイベントの周知が広がりさらなる地域活性化が見込まれるのではと考える。また、相互協力協定を結んでいる自治体として、ローズマインドの啓発など、平和教育においても福山市とさらなる連携を進めていくべきと感じた。さらに、区内各種イベントを通じて、世界バラ会議福山大会の「応援宣言」の募集など、福山大会のより積極的なサポーターとして、協力していきたいと考える。

福山市文学館については、福山市出身の井伏鱒二を中心に福山ゆかりの文人に関す資料が愛用の品や地域の人の証言をもとに展示されており、わかりやすかった。今後は同館と連携し、平和事業として「黒い雨」、鴎外関連事業として「伊沢蘭軒」の読書会などを企画してはどうかと思った。

広島県福山市への視察を終えて

松平　雄一郎

本区との協定先である広島県福山市を訪問し、グリーンスローモビリティの先進的な事例と、世界バラ会議開催に向けたに取り組み状況に関して視察をしました。

グリーンスローモビリティについては、運営事業者であるアサヒタクシー株式会社の皆さまのご案内で、実証実験を行った鞆の浦と、観光地である福山城公園の二か所を視察し、地元の高齢者の方々が病院等に行く際の貴重な交通手段となっている事や、より楽しく魅力的な観光をするための交通サービスとなっている事を学びました。特に鞆の浦の地域は坂道や細い路地が多く、例えば小日向、西片、大塚などの文京区の一部地域とも似ており、区内の交通不便地域の解消や高齢者の方々の移動手段としてとても有効ではないかと感じました。

世界バラ会議に関しては、福山市世界バラ会議推進室の方々から、市の戦後復興のシンボルであるバラを中心としたまちづくりや、情報発信などの取り組みについて学びました。バラをキーワードに福山市の魅力を発信する様々な取り組みは大変興味深く、本区西片公園にもバラの苗を寄贈して頂いておりますが、バラを接点としたさらなる本区との連携をさらに築いていければと強く感じました。今回の視察で得たものを、これからの議会活動に生かしていきます。

「グリーンスローモビリティ」と

「2025 年世界バラ会議福山大会」計画を視察して

山田　ひろこ

民間タクシー会社が運営する小型電動カートのグリーンスローモビリティは、低炭素社会の実現に資する乗り物であり、高齢化が進む地域での地域内交通の確保や、観光資源となるような観光モビリティの展開など、地域が抱える様々な交通の課題の解決に、大変期待できるものだと感じました。ただし、持続的なサービスとしていくには、地域の足としては、利便性をアピールする必要の余地があること、また、観光モビリティとしては、現在の福山城エリアに限った乗り合い制の乗車賃 200 円から、貸し切り型にして、走行エリアを広げる方が利便性があり、利用者の期待ができるのではないかと

思った。文京区には狭路や坂も多いので、ビーグルの走らない地域での活用も見込めるのではないかと感じた。

2025 年に予定されている世界バラ会議福山大会は 1971 年より３年に１度世界主要都市で行われてきており、日本では 2006 年の大阪に続く開催となる。福山市の「ばらの始まり」は、戦後のまちの復興時に、市民の手によって現在のバラ公園に約 1,000 本のばら苗が植えられたことにある。その後もばらを通じた様々なまちづくりが行われてきた。そして、2015 年には「福山市ばらのまち条例」が制定され、名実ともに、「ばらのまち」が市民に浸透しているのが伺えた。市民全員が共有する取組の好事例であった。しかし、市外の人にとって「ばらのまち福山」の認知度は、けして高いようには思えなかった。SNS での発信を始めたのは、大変有効だ。それと連携し、観光としての盛り上げに大いに期待したいところだ。文京区においても、区民全員が共有する区のブランドイメージがあってもいいと感じた。「文の京」に相応しく、おぎゃっと生まれてから続く人生 100 年間の生涯教育はどうだろうか。　文京区と言えば、『これ！』が欲しいなと感じた。

誰もが地域の中で生きる「安全」「安心」「快適」な移動手段の確保を

海津　敦子

性別も学歴もお金の有無も関係なく誰にも平等に訪れる老い。老いても病気や障害があっても、住み慣れた地域で暮らしていかれるように多様な選択肢を提供していくのが行政の重要な役割です。

文京区では現在、５人に１人が高齢者（65 歳以上）で、高齢者のひとり暮らしは高齢者のいる世帯の４割を占めています。高齢者の中には、近所にバス停や地下鉄等がない、あってもそこまでの道のりが坂路で困難だったり、動くのに誰かの手助けが必要だったりと、移動や外出がしづらく孤立になりがちな環境に身を置いている人たちも少なくありません。

それだけに、頼れる家族がいなくても、仲間が近くにいなくても、経済的に困窮していても、安全、安心、快適に使える移動手段を提供していくことは、喫緊に対応が必要な地域課題のひとつです。

福山市でゴルフカートを改良したグリーンスローモビリティ（グリスロ）は、狭い路地も坂道も通行でき、坂道が多く、狭隘な道も多い文京区での導入も考えられます。例えば、坂道の先にバス停があるため高齢者の方にとっては利用しづらくなっている地域で、バス

停までのグリスロを運行する。といったことも可能ではないでしょうか。

移動手段を確保できない、困難がある。といったことで閉じこもりがちになることのない文京区を目指し、効果的な移動手段を区と共に考えていきます。